

窯業系サイディング外壁面の塗替え仕様

G c - 1 1液形水系ポリウレタン樹脂塗料 3回塗り

G c - 2 1液形水系シリコン樹脂塗料 3回塗り

工 程	塗 料 名	塗 回 数	標準塗付量 (kg/m <sup>2</sup> /回)	塗り重ね 乾燥時間 (20℃)	希釈剤 希釈率 (%)	塗装方法
下地調整	既存塗膜に浮き・ふくれ・脆弱な部分がある場合は、ディスクサンダー・スクレーパー研磨紙等を用いて除去する。 チョーキング・汚れ・著しいかび・藻・劣化塗膜などを高圧水洗で除去する。 部分除去又は全面除去した部分は水性専用フィラーで面調整行う。					
下塗り	1液形水系浸透性シーラー	1	0.12～0.20	2時間以上	無希釈 —	はけ ウールローラー 砂骨ローラー
	水系微弾性フィラー	1	0.30～1.3	3時間以上	水道水 0～5	
	1液形溶剤系シーラー	1	0.12～0.16	1時間以上	専用シーナー 0～10	
上塗り	1液形水系ポリウレタン樹脂塗料	2	0.12～0.16	2時間以上	水道水 5～10	はけ ウールローラー
	1液形水系シリコン樹脂塗料					

注) 1 下塗り塗料の選定は旧塗膜の種類・劣化程度等により選定し、塗料メーカーの特記による。

2 各数値はすべて標準のもので、施工方法・施工条件によりそれぞれ多少の幅を生じることがある。

G c - 3 2液形弱溶剤ポリウレタン樹脂塗料 3回塗り

G c - 4 2液形弱溶剤シリコン樹脂塗料 3回塗り

工 程	塗 料 名	塗 回 数	標準塗付量 (kg/m <sup>2</sup> /回)	塗り重ね 乾燥時間 (20℃)	希釈剤 希釈率 (%)	塗装方法
下地調整	既存塗膜に浮き・ふくれ・脆弱な部分がある場合は、ディスクサンダー・スクレーパー研磨紙等を用いて除去する。 チョーキング・汚れ・著しいかび・藻・劣化塗膜などを高圧水洗で除去する。 部分除去又は全面除去した部分は水性専用フィラーで面調整行う。					
下塗り	水系微弾性フィラー	1	0.30～1.3	3時間以上	水道水 0～5	はけ ウールローラー 砂骨ローラー
	1液形溶剤系シーラー	1	0.12～0.16	1時間以上	専用シーナー 0～10	
上塗り	2液形弱溶剤系ポリウレタン樹脂塗料	2	0.12～0.16	2時間以上	塗料用シーナー 5～10	はけ ウールローラー
	2液形弱溶剤系シリコン樹脂塗料					

注) 1 下塗り塗料の選定は旧塗膜の種類・劣化程度等により選定し、塗料メーカーの特記による。

2 各数値はすべて標準のもので、施工方法・施工条件によりそれぞれ多少の幅を生じることがある。

G c - 5 高意匠サイディングボード保護クリヤー 2回塗り

ロックペイント ユメロック UV ガードクリヤーの仕様

工 程	塗 料 名	塗 回 数	標 準 塗 付 量 (kg/m <sup>2</sup> /回)	塗 り 重 ね 乾 燥 時 間 (20℃)	希 積 剤 希 積 率 (%)	塗 装 方 法
下地調整	旧塗膜でハガレ部分、フクレ部分等はワイヤーブラシ、皮スキ等のケレン具を用いて完全に除去する。 またエフロレッセンス、チョーキング部分、汚れなどは高圧水洗浄等で除去し、乾燥した清浄面とする。 旧塗膜剥離部分は必要に応じて補修塗装をして下さい。					
下塗り	ユメロックUVガードクリヤー	1	0.11~0.13	2時間以上	塗料用シンナー 5~15	はけ ウルローラー
上塗り	ユメロックUVガードクリヤー	1	0.11~0.13	2時間以上	塗料用シンナー 5~10	はけ ウルローラー

注) 1 各数値はすべて標準のもので、被塗装物の状態、素地の状態、気象条件、施工条件によりそれぞれ多少の幅を生じることがある

☆ 各塗料メーカーの仕様に従い施工上の要点及び注意事項を必ず厳守して施工すること。

工法

- i 施工されているシーリングが劣化し、ひび割れしている場合は、打ち直しを行う。
- ii 打ち直す場合のシーリング材は純シリコン系、ポリサルファイド系シーリング材は汚れが発生するおそれがあるので、使用せず、1液又は2液変成シリコン系シーリング材、ポリウレタン系シーリング材を用いる。
- iii 下塗りの水系微弾性フィラーの弾性機能は、塗付量によって異なるので、所定の塗付量を塗装する。
- iv 塗料は内容物が均一になるように十分攪拌する。
- v 希釈する場合、薄めすぎは隠ぺい力不足、仕上がり不足となりますので注意し、所定の割合で行う。
- vi はけ塗り仕上げとローラー仕上げが混在する場合、塗付量、表面肌が異なり色相差が出来るので、はけ塗りの部分は、希釈割合の所定内で希釈を少なくして塗装する。
- vii 汚れ、傷などにより補修塗りが必要な場合が生じるため、使用塗料の控えは必ず取っておき、同一塗料、同一塗装方法で補修塗装を行う。
- viii 釘頭には、あらかじめさび止め塗料を塗装しておく。
- ix 藻・かびの発生が著しい場合、あるいは徹底的に藻・かびの発生をおさえたい場合は、製造メーカーの指定する材料・工法により処理する。

## 注意事項

- i 旧塗膜が弾性塗料および単層形弾性塗料で上塗りまたはベース塗り層に著しいふくれの発生している場合は再ふくれが発生する可能性があるため、旧塗膜を完全に除去する。
- ii 塗装場所の気温が 5℃以下、湿度が 85%以上または換気が不十分で結露が考えられる場合は塗装を避けてください。
- iii 極めて湿度が高く、空気の動きの悪い場所では、仕上がり不良・付着不良の問題が発生するので、注意し施工する。
- iv 外部の塗装中に塗装中に降雨、降雪のおそれがある場合および強風時は塗装を避ける。
- v 塗装時ならびに塗料の取り扱い時は、十分に換気を行い火気厳禁にする。
- vi 製品の安全に関する詳細な内容が必要な時には、製品安全データシート (MSDS) を参照する。